経済リポート 2018 年(平成 30 年)3 月 10 日号

河川浄化C月間の実施を報告

流域住民とAEMCが連携

BOD2%、リン40%減少

芦田川環境マネジメントC

芦田川の水環境改善を目指す官民ネットワーク「芦田川環境マネジメントセンター＝AEMC」（事務局＝福山市西町2―10―1・エフエムふくやま内、田中宏行会長、電０９０・２３８１・６６１９）は、昨年11月に1カ月間「河川浄化チャレンジ月間」を実施。瀬戸川・高屋川流域を中心に、芦田川流域全体に「家庭で出来る水質浄化の取り組み」の実践を呼びかけ、１７３９世帯が参加した。さらに瀬戸・駅家の2学区、津之郷・赤坂・御野・中条・服部・宜山・常金丸・駅家西・駅家・御幸・網引・瀬戸の12小学校と幸千中学校及び流域の市民団体がアンケートに協力し、このたびAEMCが結果をまとめた。

それによると、瀬戸川流域ではBOD（水中の汚れの量）は2%、T―P（水中のリンの量）は40%減っており、汚れの量の減少が確認された。

水質浄化の取り組みは、07年度からスタートし、通算で11回目となる。

取り組み内容は、①排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない②汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う③食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりしてゴミとして出す④食器類を洗う時に、洗剤の使用量を減らす⑤洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける――の５項目。

チャレンジ月間の参加者らは「家族と取り組むことによって、自分の環境への考え方が変化したことを実感した」「これからも継続していきたい」などの声が集まった。AEMCでは、「意識の変化や今後の取り組みへの決意など、年間を通じた取り組みとして流域全体へ展開していくことが期待できる、積極的な意見を多数いただいた」と、その成果を話した。